学校番号	1011

令和８年度　理科

教科	理科	科目	(学)生物演習	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「改訂版　生物基礎」　（数研出版）						
副教材等	「三訂版リードLightノート生物基礎」「改訂版リードLightノート生物」（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・生物系・農学系・医療看護系進学をめざす人が受講する授業です。この授業内で扱いきれない演習問題は「生物演習」の授業で扱うので必ず合わせて受講してください。
・生物や生命現象について学びます。生物基礎の知識に基づく見方や考え方を身に着け、日常生活に活かしてください。さらに、「生物」を学ぼうとする人の基礎となる内容を学びます。学習を通して科学的な知見や感性を養ってください。
・予習は可能な範囲で構いませんが、授業内でわからないことがあれば担当者へ確認してわからないままにしないことと、丸暗記ではなく理論的に理解し問題集を活用すること等、継続的な日々の復習は必要です。

2　学習の到達目標

・生物基礎の基本的な概念・原理・法則を理解できる。
・観察、実験などを行い、なぜそのような現象が起こるか・なぜそのような結果が得られたのかについて考えて検証することで科学的に探究できる。
・日常生活や社会と生物基礎の関連事象を学びながら生物・生物現象への関心を高めようとしている。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生物や生命現象について、基本事項や、また観察・実験に関する事項について理解しているとともに、観察・実験の基本操作や技能を身に付けている。	生物や生命現象の中に問題を見出し、見通しをもって観察・実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	日常生活の中に生物や生命現象に関わる事物・現象に主体的に関わり、意欲的・科学的に探究しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	生物の体内環境の維持	体内環境としての体液 腎臓と肝臓による調節	a:血液を中心とする体液の、成分・働きについて、腎臓や肝臓のつくり・働きについて学んだことで、体内環境が維持されていることが理解できる。 b:血液成分のそれぞれの働きや、腎臓における尿生成・ホメオスタシスについてのまとめを行い、発表することができる。 c:血液成分・腎臓・肝臓の異常が様々な病気を引き起こすことに関心を持つ。	定期テスト 確認テスト	定期テスト 確認テスト 観察・実験 レポート	授業準備 取り組み 姿勢 提出ノート 観察・実験 レポート
2学期	生物の体内環境の維持	神経とホルモンによる調節 免疫	a:交感神経と副交感神経の拮抗的作用、ホルモンのフィードバック調節、様々な病原体に対する防衛の仕組み等について理解できる。 b:特に血糖量調節に自律神経とホルモンがいかにかかわっているか、免疫機能がどのように働き、医療にも応用されているか、説明できる。 c:自律神経・ホルモン・免疫の異常が様々な病気をひこ起こすことに関心を持つ。	定期テスト 確認テスト	定期テスト 確認テスト 観察・実験 レポート	授業準備 取り組み 姿勢 提出ノート 観察・実験 レポート
3学期	細胞と分子	生体を構成する物質 タンパク質の構造と性質 酵素のはたらき	a:生物を構成する物質、特にタンパク質の構造や働き、酵素について理解できる。 b:特にタンパク質であるがゆえに生じる酵素の性質について、説明できる。 c:授業の内容について意欲的に取り組み、努力の姿勢がみられる。	定期テスト 確認テスト	定期テスト 確認テスト 観察・実験 レポート	授業準備 取り組み 姿勢 提出ノート 観察・実験 レポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度